

令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25010
月寒東小学校

「学ぶ力」	
これまでの成果	課題
<p>◇全国学力・学習状況調査の結果より、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組む」「総合的な学習の時間では、自分で課題を考えて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む」など、積極的に学びに向かう児童が多いという実態がある。</p> <p>◇学校独自の児童アンケートより、「発表すること」に関して肯定的な児童が多く、学級での話し合いなどを中心に効果的な活動が行うことができている。</p>	<p>◇全国学力・学習状況調査の結果より、「国語・算数・理科の勉強が好きではない」との回答から、大切な役に立つものと認識はしていても、難しさなどの理由で学習に前向きになれない児童が多い。</p> <p>◇学校独自の児童アンケートでは、「発表すること」へ肯定的な児童が多いが、学年が上がるごとに進んで発言しようとする児童が減っていく。それと同時に、意欲的に家庭学習に取り組む児童も減少していく傾向にある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇全国学力・学習状況調査や学校独自の児童アンケートより、「人が困っているときは、進んで助けている」「仲良く協力する」など他者受容力が高い反面、「幸せな気持ちになる」ことが少なく、自己幸福感が十分ではないことが伺える。他者だけではなく自分自身を肯定的に捉え、児童の自己肯定感を育てていくために、教師が適切な場面とタイミングで児童の考えを価値付けたり、児童の困りや不安を減らしていったりする関わりを継続していく必要がある。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学ぶ楽しさや分かる喜びを感じ、能動的に学びに向かう力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>◇授業構築の視点</p> <p>「学ぶ楽しさや意義を実感できる教材化・単元構成」</p> <p>→子どもたちが学びの<u>楽しさ</u>や<u>必要性</u>を感じ、自分から動き出すような学習展開</p> <p>→習得したことを<u>実感</u>したり<u>活用</u>したりする場の設定</p> <p>「能動的に学ぶ子どもを育てるための教師の関わり」</p> <p>→課題を自分ごととして捉え、学びの見通しをもつ</p> <p>→自己選択・自己決定しながら学びを進め、他者を求め行動する</p>	<p>◇学びの基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己存在感の感受 ・共感的な人間関係の育成 ・安心、安全な風土の醸成 <p>◇自分たちで創り出す活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性を大切にしたい委員会活動 ・満足感や達成感が得られる学年独自の活動、取組 ・異学年への発信の場の保障

〈本プログラムの実行に向けて〉

